

教育目標:つよい子・考える子・助け合う子

杉並区立大宮小学校



大宮小

HP URL: <http://www.suginami-school.ed.jp/oomiyashou/>

題字『大宮賢』(おおみやこう) 勝海舟

大宮小学校の校庭の芝生についてのご報告

校長 本川里美

杉並区では、平成13年度からビオトープの設置と校庭芝生化により杉並区版エコスクール事業が展開され、本校でも、壁面緑化、芝生など学校の緑化を推進して参りました。

10月10日の運動発表会には、きれいな芝の緑の校庭で発表したいという思いをもって、今年も整備をしてきました。しかし、8月中旬、わずか数日の間に校庭の4分の3が、土になってしまいました。芝生の業者に調査を依頼したところ、ケラ(※注)に芝の根や種を食べられたことが原因でした。これをきっかけとして学校は、区と共に校庭の芝生について考える機会を得、今後も芝生を続けるタイムライン、芝生を止めた場合の今後の方向などを協議しました。その結果や学校の現状も鑑み、学校運営協議会、学校支援本部、地域の方、PTA執行部の皆様にご相談しました。職員会議でも会議を重ねた結果、苦渋の決断ですが、今後、校庭の芝生化の継続をしないことに致しました。

継続を断念する理由として以下のことが挙げられます。①年3回の養生期間中は、校庭での子供たちの活動が制限される。②児童数増加により養生期間中、済美山グラウンドでの遊びについて安全確保が難しくなっている。今後も児童数は増加が予想される。③新型コロナウイルス対策で密を避け、校庭で遊べる学年を制限している。場所を分散させ活動させているが、養生期間が加わると、校庭が使えなくなり、十分な遊びの活動が確保できない。④学童クラブに加え、放課後居場所事業の開始により、校庭使用のニーズが高まっている。⑤何よりも校庭は子供たちのためにある。1年間を通して校庭を使わせたい。

保護者の皆様にもご意見をいただきましたかったのですが、現在大人数で集まることができず、叶いません。昨年度の教育調査である「芝生の校庭は教育に良い効果をあたえるか」という設問に52.4%の方がよいとの回答がありました。その結果が約半数だったことを判断材料の参考にさせていただきました。今後は、区と相談し、砂の校庭として整備する準備を進めてまいります。

時代と共に大宮小の歴史や環境も変化していくのだと感じています。とはいえ、芝生がなくなることについては、寂しい気持ちがこみ上げてきます。今まで、子供たちは、自然を身近に感じ、けがを恐れず思い切り運動に取り組んできました。ふかふかの緑の芝生のクッションの上で子供たちが寝転んで遊ぶ姿は、大宮小学校の自慢の一つでもありました。芝生化によって、校庭のいちょうがとても元気になったのだという話も聞きました。芝生は、夏の暑さや冬の寒さを緩和する役割もありました。学校に来た時の芝のにおいは、とても清々しく、よい気分を朝を迎えられました。思い出は尽きません。今までの校庭に感謝し、また新しい未来に進んで参ります。今後ご理解ご協力の程よろしくお願いたします。

運動発表会は、少し寂しい校庭ではありますが、子供たちの学習の成果をぜひご覧ください。お待ちしております。

(※注:日本では「おけら」と呼ばれる。バッタの仲間。地中で穴掘りをして生活する。雑食で植物の根、小昆虫などを食べる)

《食育について》

大宮小学校は、毎年サヤエンドウやソラマメのさやむき、地元農家さんから野菜の話聞くことなど様々な取り組みをしてきました。一学期は、このような体験を見送って参りましたが、2学期からは十分な配慮を行いながら食育計画を進めていきたいと思っております。給食の時間に、旬の食材や献立の説明をすると、「この郷土料理よくおじいちゃんの家で食べました」「この料理の作り方教えてください」など「食」への関心の高さが伝わってきます。給食を通して「食」を選ぶ力を持ち、健全な食生活を送ることの大切さを伝えていきたいと思っております。

(栄養士 松川玲子)